

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 7 年 1 月 27 日(2025.1.27)

【公開番号】特開 2024-102139(P2024-102139A)

【公開日】令和 6 年 7 月 30 日(2024.7.30)

【年通号数】公開公報(特許)2024-141

【出願番号】特願 2024-70307(P2024-70307)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00(2006.01)

10

A 6 1 K 31/44(2006.01)

A 6 1 K 9/107(2006.01)

A 6 1 K 9/20(2006.01)

A 6 1 K 9/22(2006.01)

A 6 1 K 9/48(2006.01)

A 6 1 K 9/52(2006.01)

A 6 1 K 9/58(2006.01)

A 6 1 K 47/08(2006.01)

A 6 1 K 47/12(2006.01)

A 6 1 K 47/20(2006.01)

20

A 6 1 K 47/26(2006.01)

A 6 1 K 47/32(2006.01)

A 6 1 K 47/38(2006.01)

A 6 1 P 25/00(2006.01)

A 6 1 P 25/08(2006.01)

A 6 1 P 25/16(2006.01)

A 6 1 P 43/00(2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/44

30

A 6 1 K 9/107

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/22

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 9/52

A 6 1 K 9/58

A 6 1 K 47/08

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 47/20

A 6 1 K 47/26

40

A 6 1 K 47/32

A 6 1 K 47/38

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/08

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 1 月 17 日(2025.1.17)

【手続補正 1】

50

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

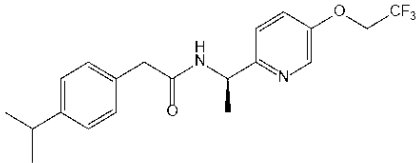
【請求項 1】

運動障害を有するヒトの処置に使用するための、前記ヒトに 1 日 1 回、経口剤形で投与される、C a v 3 アンタゴニストを含む医薬組成物であって、

前記 C a v 3 アンタゴニストが、C X - 8 9 9 8

【化 1】

10



またはその薬学的に許容される塩であり、

前記医薬組成物が、前記 C a v 3 アンタゴニストを含む制御放出成分、及び任意で前記 C a v 3 アンタゴニストを含む即時放出成分を含み、

20

前記医薬組成物が、ヒトに 1 日 1 回投与される場合に、投与の 2 4 時間後における前記 C a v 3 アンタゴニストの平均血漿濃度で除算した前記 C a v 3 アンタゴニストの最大血漿濃度 (C m a x) (

【化 2】

$$\frac{C m a x}{24 \text{ 時間後の血漿濃度}}$$

) を約 1 . 0 ~ 約 5 . 0 に維持するのに有効である、前記医薬組成物。

【請求項 2】

30

前記医薬組成物がヒトに 1 日 1 回投与される場合に、投与の 2 4 時間後における前記 C a v 3 アンタゴニストの平均血漿濃度で除算した前記 C a v 3 アンタゴニストの最大血漿濃度 (C m a x) (

【化 3】

$$\frac{C m a x}{24 \text{ 時間後の血漿濃度}}$$

) を約 1 . 0 ~ 約 4 . 0 に維持するのに有効である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

40

前記医薬組成物がヒトに 1 日 1 回投与される場合に、投与の 2 4 時間後における前記 C a v 3 アンタゴニストの平均血漿濃度で除算した前記 C a v 3 アンタゴニストの最大血漿濃度 (C m a x) (

【化 4】

$$\frac{C m a x}{24 \text{ 時間後の血漿濃度}}$$

) を約 1 . 0 ~ 約 3 . 0 に維持するのに有効である、請求項 1 又は 2 に記載の医薬組成物

50

【請求項 4】

前記 C a v 3 アンタゴニストの前記血漿濃度が定常状態での血漿濃度である、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記 C a v 3 アンタゴニストが塩酸塩である、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記制御放出成分が、前記 C a v 3 アンタゴニスト又はその薬学的に許容される塩を含む複数の粒子を含み、pH 感受性腸溶性ポリマーを含むコーティングを含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の経口剤形。

10

【請求項 7】

前記 pH 感受性腸溶性ポリマーは、溶解 pH が pH 約 5 . 5 ~ pH 約 7 である、請求項 6 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記 pH 感受性腸溶性ポリマーは、溶解 pH が pH 約 7 である、請求項 7 に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記制御放出成分中の前記粒子がビーズである、請求項 6 ~ 8 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記医薬組成物が、前記 C a v 3 アンタゴニスト又はその薬学的に許容される塩を含む即時放出成分を含有する、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

20

【請求項 11】

前記即時放出成分を約 40 % 及び前記制御放出成分を約 60 % 含む、請求項 10 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

前記即時放出成分が前記 C a v 3 アンタゴニスト又はその薬学的に許容される塩を含む複数の粒子を含み、場合により前記即時放出成分中の前記粒子がビーズである、請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

前記即時放出成分及び前記制御放出成分のそれぞれがラクトース一水和物をさらに含む、請求項 10 ~ 12 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

30

【請求項 14】

前記運動障害が、本態性振戦又はパーキンソン病に関連する振戦である、請求項 1 ~ 13 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記運動障害が本態性振戦である、請求項 14 に記載の医薬組成物。

【請求項 16】

前記運動障害がパーキンソン病に関連する振戦である、請求項 14 に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記処置が、パーキンソン病に関連する振戦を低減又は除去するのに有効である、請求項 16 に記載の医薬組成物。

40

【請求項 18】

前記患者の目覚めの 4 時間以内に投与される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 19】

前記ヒトが成人である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 20】

前記成人が 18 歳以上である、請求項 16 に記載の医薬組成物。

【請求項 21】

前記医薬組成物の単位用量が前記 C a v 3 アンタゴニスト又はその薬学的に許容される

50

塩を約 0 . 5 m g ~ 約 2 0 m g 含む、請求項 1 に記載の医薬組成物。

10

20

30

40

50